

旅客流動を考慮した券売機設置台数の算定方法

青木俊幸 石突光隆

自動改札機の普及をうけ、SFカードやIC化券等の使用が拡大し、券売機を利用する旅客は減少している。一方で券売機の高機能化により操作が複雑になるとともに券売機利用者に占める鉄道に不慣れな人の比率は高まっているとも考えられる。従来の券売機算定式は、一日当たりの発券枚数のみを指標としており、実態にそぐわない点も見受けられる。そこで券売機の操作面と流動面の調査を行い新しい台数算定手法を構築した。

まず、券売機の利用状況の実態調査から、駅のタイプ別に券売機を利用する時間を求めた。次に、旅客の券売機到着状況について、列車本数が少ない場合や他線乗換による流動の波動がある場合も含めて、自動改札機の通過人数で推定できることを示した。

そして、自動改札通過データと利用時間による、券売機の設置台数算定方式を提案し、各駅の所要台数算定を行った。

(鉄道総研報告、2007年5月)

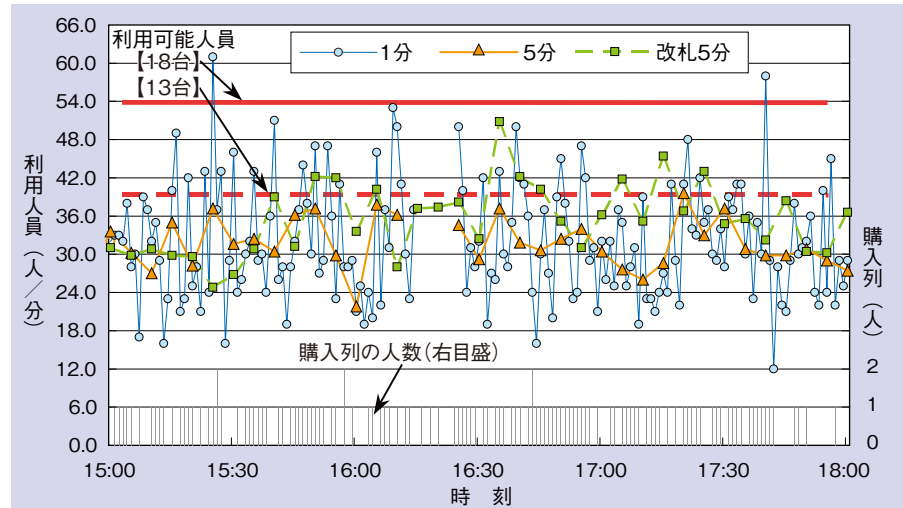


図 券売機利用の実態と台数の算定